

ネットワークボード

ぱれっとの地元渋谷区で、新型コロナウイルス感染症の影響を受けている子育て世帯に向け、区独自の施策として全国共通ギフトカード「QUOカード(クオカード)」を支給することに決めたという報道がありました。対象世帯数は1060世帯、申請手続きは不要で、すでにほぼ配布を完了しているとのこと。そしてこの無料配布QUOカードのパッケージに、以前からおかし屋ぱれっと/工房ぱれっとが参画している「シブヤフォント」(障がいのある人たちが描いたイラストや文字、模様などをパブリックデータとして、名刺やチラシなど、様々なツールに用いてその使用料を工賃として還元するプロジェクト)が採用されました。イラストにぱれっとの通所員の作品が使われました。「コロナ禍」と言われる厳しい状況下、こうした新しい動きは大変ありがたいですね。(編集部)



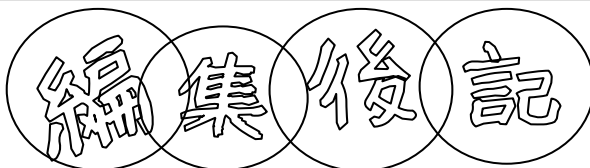
SHIBUYA FOR CHILDREN



【シブヤフォント】とは・・・

渋谷でくらし・はたらく障がいのある人の描いた文字や数字を、渋谷でまなぶ学生がフォントとしてデザインしたパブリックデータ。さまざまなモノやコトに使われることで、より多くの人に渋谷を好きになってほしい、シティプライドを感じてほしい、そして障がいのある人の活動を知ってほしい。こうした願いをシブヤフォントに託しました。

<http://www.shibuyafont.jp/>



新聞やテレビで「コロナ」という言葉を聞かない日はありません。自粛期間中、繰り返し流れる報道に、大人も子どもも恐怖心を容赦なく煽られ、気持ちが塞ぐ日々が多かったと思います。この状況はまだまだ続くと思われ、日常を取り戻すには年単位での覚悟が必要とも言われています。ぱれっとつうしんも前回、「休刊」という事態にならざるを得ず、総会も史上初めてオンラインでの開催など、あまり歓迎したくはない「初めての出来事」に翻弄されているのが事実です。とにかく今後も気持ちをしっかり強く持って日々対応していきたいと思います。

そんな中でも、例えばたまり場ぱれっとのボランティア会議をオンラインでやることによって、今までは仕事が忙しくて参加できなかった人も、移動時間が無くなることで出席できたり、総会のライブ中継にも「普段と違ってじっくり話に耳を傾けることができた」などの前向きな感想も頂きました。要は「今をどうポジティブに捉えるか」「そしてどこへ向かうか」という思いが必要なのかも知れません。(事務局長・南山)